

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 22年12月28日

1. 概要

実践団体名	佐用高等学校農業科学科 防災プロジェクトチーム		
連絡先	代表：細見 幸司（携帯：090-9213-1086）		
プランタイトル	佐用町は大きな家族！ ～ 豪雨災害を乗り越えて ～		
プランの対象者	小学生（高学年） 高校生、大学生 地域住民	対象とする 災害種別	地震 水害

【プランの目的・ここがポイント！】

「一昨年の8月9日に甚大な豪雨災害にみまわれた我が町を勇気づけたい。」
過疎化、高齢化が進む佐用町を地元の高校生の力によって復興の手伝いができないかと考え、農業を学ぶ私たちは立ち上がりました。農業を題材として学んでいる学科だからこそできる防災活動を提案し、学校間や地域住民の方々と地域に根ざした取り組みを実践したプランです。

【プランの概要】

- ① 手作りプランターの製作、配布（6月佐用商店街、8月久崎商店街に各50個配布）
※ 植え付けた草花はすべて私たちの手で栽培したもので、久崎商店街に配布した50個は舞子高校生、神戸学院大学生と協同で製作しました。
- ② 手作り紙芝居の製作、上演（6月佐用小学校、11月上旬小学校の6年生約110人を対象）
- ③ 被災者からの聞き取り、アンケートの実施（12月）
災害直後の避難状況や生活実態、現在の様子などを聞き取りまとめました。

<災害直後の活動として>

人的支援ボランティア（一週間で約500名の生徒が参加）
義援金活動（姫路駅前：2日間で約100万円）、仮設住宅へのお見舞い（学校の農作物提供）

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ① 佐用町や被災者に元気を届けられる。
- ② 防災意識の向上とこれからの水害対策への課題を見ることができる。
- ③ 生徒の自主性に基づいた活動ばかりであり、活動を通じての生徒の成長ぶりは目を見張るものがある。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録（2010年）

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2010年 4月	○草花の種まき	○プランター材料の準備	○草花の種まき
2010年 5月	○防災紙芝居の製作 ○プランター組み立て	○紙芝居ストーリーの検討 ○草花の鉢上げ、管理	○防災紙芝居の製作 ○プランター組み立て
2010年 6月	○プランター配布 ○防災紙芝居の上演	○佐用商工会との打ち合わせ ○メッセージカード作成	○プランター配布 ○防災紙芝居の上演
2010年 7月	○農業クラブ県大会の 発表		○農業クラブ県大会の 発表
2010年 8月	○佐用町「感謝のつど い」発表	○アンケート作成	○佐用町「感謝のつどい」発 表
2010年 9月	○佐用町久崎商店街 アンケート調査		○佐用町久崎商店街 アンケート調査
2010年 10月	○防災教育チャレンジ プラン中間報告発表		○防災教育チャレンジプラ ン中間報告発表
2010年 11月			
2010年 12月	○佐用町久崎商店街 合同聞き取り調査 (舞子高、神戸学院)	○葉ボタンの収穫・配布準備	○佐用町久崎商店街 合同聞き取り調査 (舞子高、神戸学院)

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	手作りプランターの製作・配布
実施月日（曜日）	平成22年6月29日（火）
実施場所	佐用商店街
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：細見幸司（生徒：竹本昌也） 所属・役職等：佐用高校教諭（農業科学科3年生）
所要時間または「コマ数×単位時間」	製作：10時間（2年生39名により実施） 配布：2時間（3年生18名により実施）
プログラムのカテゴリ、形式	教科学習
活動目的	草花を飾り、被災地に潤いを与える。 被災者へ勇気や元気を与える。
達成目標	自らが育てた草花を植え付けて50個配布する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	【草花作り】 ○草花の種まき → 鉢上げ → 管理 → 植え付け 【プランター作り】 ○木材の調達 → 木材磨き → 防腐剤塗り → 組み立て → 学校名の記名 → 草花植え付け → 商店街配布 【激励のメッセージ作成】
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	【資材】木材（松・桧）、ビス、インパクトドライバ、防腐剤、ハケ、ペンキ、花の土、紙ヤスリなど 【人材】農業科学科生徒2年39名、3年18名 佐用商店街の方3名 計60名
参加人数	約60名
経費の総額・内訳概要	約15万円（木材、花の土、防腐剤、ハケなど）
成果と課題	【成果】地域の方々に喜んでいただけ、生徒と住民との距離が今まで以上に近くなった。形としてずっと残るものであり、生徒も自尊感情が芽生えた。 【課題】経費と耐久性の問題。
成果物	プランター、地域住民と学校（生徒）のつながり

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム②】

タイトル	手作り防災紙芝居の製作・上演
実施月日（曜日）	平成22年6月22日（火）
実施場所	佐用町立佐用小学校ランチルーム
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：細見幸司（生徒：田中静香、山岡大貴） 所属・役職等：佐用高校教諭（農業科学科3年生）
所要時間または「コマ数×単位時間」	製作：約14時間（プロジェクトチーム5名で実施） 上演：約2時間（プロジェクトチーム5名で実施）
プログラムのカテゴリ、形式	教科学習（読み聞かせ、上演）
活動目的	豪雨災害による教訓を風化させない。 次世代の子ども達への正しい防災知識の伝達。
達成目標	児童たちに興味関心を抱かせる紙芝居の上演会とする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	【紙芝居製作】※ <u>水害編と地震編を作る</u> ○原稿作成 → イラスト作成 → イラスト色塗り → 読み合わせ（特に水害編では、水害の被災児童を配慮した内容になるようにした） 【上演会】 ○小学校との打ち合わせ → 実施内容の検討 → アンケートの依頼
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	【材料】厚紙、鉛筆、クレヨン、原稿用紙、ボードなど 【人材】農業科学科生徒3年5名 佐用小学校6年60名、その他教職員5名
参加人数	約70名
経費の総額・内訳概要	約6,000円（文具用品）
成果と課題	【成果】子供たちの防災意識の向上につながった。また、生徒達も伝達することの大切さ、難しさが得られた。 【課題】継続した取り組みにならなければ防災意識の維持はできない。時間がお互いにとれない。
成果物	防災に対する知識の習得と意識の向上。児童生徒の学習意欲向上。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム③】

タイトル	他校生との交流事業「プランター作り」の参加
実施月日（曜日）	平成22年8月10日（火）～11日（水）
実施場所	佐用町 久崎商店街
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：細見幸司（生徒：押田充巨、田中静香） 所属・役職等：佐用高校教諭（農業科学科3年生）
所要時間または「コマ数×単位時間」	奉仕作業：4時間 プランター作り、配布：6時間
プログラムのカテゴリ、形式	校外学習
活動目的	他校生との交流と防災活動の輪を広げる。 被災地域、住民に対するボランティア精神を養う
達成目標	被災地域を清掃作業によって美しくし、50個の手作りプランターを配布する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>【奉仕作業】 参加者全員（約60名）で数カ所の空き地の除草作業を実施した。</p> <p>【プランター製作】 本校生徒が指導しながら、手作りプランターの製作を行なう。作業行程は校内で制作した時と同じ。 43個のプランターを製作し、本校の草花を植え付けて久崎商店街の方々にメッセージカードと共に配布した。</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>【資材】木材（松・桧）、ビス、インパクトドライバ、防腐剤、ハケ、ペンキ、花の土、紙ヤスリ、一輪車など</p> <p>【人材】佐用高校生徒2名、舞子高校生徒20名、教職員5名 神戸学院大学、工学院大学学生26名 計63名</p>
参加人数	63名
経費の総額・内訳概要	約13万円（木材、花の土、防腐剤、ハケなど）
成果と課題	<p>【成果】プランターの配布によって殺風景な商店街が明るくなり、被災者の心の励みにつながった。</p> <p>【課題】経費と耐久性の問題。</p>
成果物	プランター、地域住民と学校（生徒）のつながり

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム④】

タイトル	被災者からの聞き取り、アンケート調査
実施月日（曜日）	平成22年12月26日（日）～27日（月）
実施場所	佐用町 久崎商店街
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：細見幸司（生徒：定森惇宏、山岡大貴） 所属・役職等：佐用高校教諭（農業科学科3年生）
所要時間または「コマ数×単位時間」	アンケート：約4時間 聞き取り、まとめ：約8時間
プログラムのカテゴリ、形式	校外学習
活動目的	被災直後の様子や現在の様子を聞き取り検証するとともに、今後のための対策に役立てる。
達成目標	なるべく多くの被災者からの具体的な情報の収集を行う。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	【アンケート】 アンケート項目の検討 → アンケート制作 → アンケート依頼（久崎商店会長） → アンケート実施 → 集計 【被災者からの聞き取り】 聞き取り項目の検討 → 被災者への依頼 → 聞き取り実施（12件） → 葉ボタン無料配布 → 集計
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	【材料】 アンケート用紙、葉ボタン 【人材】 神戸学院大学 4名 佐用高校 2名 舞子高校 15名 教員 3名
参加人数	24名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 被災者の過去や現在の様子について知ることができた。また、佐用町の魅力や防災について再発見することが多くあった。 【課題】 効率的な情報収集の方法
成果物	聞き取りデータ

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p><u>①生徒たちの視点に立った、生徒たちの活動にしなければいけなかった点</u> 教師が入りすぎると簡単であるが、生徒たちの自主性や達成感、自尊心は育たない。したがって、内容はともあれ自分たちの活動にすることに苦勞した。</p> <p><u>②被災者の気持ちに立って、私たちができる事で何を望まれているかを考えた点</u> 被災者を勇気づけたり支援する活動のつもりが逆効果となって、被災者を傷つけないような配慮をした。</p> <p><u>③活動が6月に集中し、一度に様々な活動をしなければならず苦勞した。</u></p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p><u>①草花の栽培については、相手が生き物であるだけに毎日の管理には苦勞した。</u> また、開花日を配布日に合わせる事が難しく草花の種類によっては使用できないものもあった。</p> <p><u>②プランターの組み立て作業で授業生徒が使うインパクトドライバを揃えるのに苦勞した。</u> 数台は購入していただいたが、39人が一度に組み立て作業を行うためには、少なくとも8台は確保しなければならず、近隣高校や役場などから何台か借りてなんとか円滑に実習できた。</p> <p><u>③防災紙芝居のストーリー作りには大変苦勞した。(時間を要した)</u></p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p><u>①経費に関して学校からの支援がなければ成り立たず、学校事務に随分とお世話になった。</u> 特に、プランター製作に関しては木材以外の部分で、花の土やインパクトドライバの購入など多くの費用が必要となった。</p> <p><u>②プランター配布するお宅をどうやって決定するかという事に関して苦慮した。</u> 被災者宅すべてに配布できれば一番よいが、プランターの数に限りがあり、不公平のないように配布しなければならなかった。結局、佐用商店会の会員である自営業をされているお宅にのみ配布とさせていただいた。</p> <p><u>③長期休業中の生徒達の活動継続に苦勞した。</u> 原則、学校に登校しない夏季休業や冬季休業などは活動の継続が難しく、生徒達を何度か呼び出すがなかなか集まれない事もあり大変な時もあった。</p>

防 災 教 育 ち ゃ れ ん じ ゅ う ら ん 最 終 報 告 書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	①舞子高校環境防災科生徒 ②神戸学院大学地域貢献ユニット学生 ③工学院大学学生 ④町立佐用小学校 ⑤アトリエ太陽の子	} プランター製作 } 町内除草作業 } 被災者への聞き取り 防災紙芝居の上演 命のヒマワリ写生
保護者・ PTAの組織	特になし	
地域組織	①佐用町商工会青年部 ②佐用町役場 ③久崎商店街	} プランター配布 } アンケート調査 聞き取り調査
国・地方公共団体・ 公共施設	①佐用町役場	ケーブルテレビ、広報の取材など
企業・ 産業関連の組合等	特になし	
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	特になし	
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	特になし	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>様々な活動を通じて、被災者への激励のメッセージは形として届いたと思う。被災者の多くから感謝の言葉を直接いただき、活動に携わった生徒達は自分たちの活動に誇りを感じ、自尊感情や佐用町への愛着心は向上した。</p> <p>また、災害直後に本校生徒が真っ先にボランティアに取り組んだ事は、被災者の心に響き、一気に佐用高校生と地域住民との距離が近づいた。</p> <p>昨年度本校の野球部は全国高校野球兵庫県予選会において、地元の住民の大声援を受けて創部初のベスト16に進出する快挙を成し遂げた。</p> <p>これも、まさしく地域と高校生が一体となれた証であり、地域力の結びつきを強固なものとした。</p> <p>さらに、防災紙芝居は継続した活動こそはできなかったが、小学生に災害に対しての備えの大切さを伝えるよいきっかけとなった。また、生徒達もこの活動を通じて大きく成長した。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>① <u>年間を通じて計画的に取り組めなかった。</u></p> <p>5月、6月に活動が集中し、本当に忙しかった。また、11月以降は活動が少なかったりと年間を通じてもっと計画的に取り組めばよかった。</p> <p>② <u>経費について</u></p> <p>今回は幸い学校の協力により多額の費用をカバーしていただけたが、予算内での活動はできず今後の課題である。</p> <p>③ <u>事前調査の必要性</u></p> <p>被災者が何を求めているかを十分に調査した上で活動すればよかった。私たちのできる範囲のことで、よりニーズに合わせた活動となるようにしたい。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>防災活動は継続させてこそ効果として現れるものであると考え、さらに進化した活動を継続させたいと考える。そのために、学年間を超えて（今回は3年生が中心の活動）の活動になるように引き継ぎをさせたい。</p> <p>また、指導者が転勤等によっていなくなっても活動が継続できるように教師間の連携も深めていきたい。</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

7. 自由記述欄 ①

今回の実践活動を通じて、防災（減災）には地域力が大変なウエイトを占める。という事を身にしみて感じる事ができた。

日頃からの地域住民とのつながり、結びつき、人間関係は、いざという時に大きな力を発揮し、最も頼れるものだという事が分かった。

佐用町は、人口2万人足らずの過疎化、高齢化が激しい田舎町であるが、そうした日頃からの結びつきによってあの大きな水害を乗り越えてきた。その「つながり」「結びつき」にまつわるいくつかのエピソードを紹介する。

例1) 被災者からの聞き取りの中で「公民館に避難したら被害に遭わなかった同じ地域住民がすぐに炊き出しやおにぎりを作り、毎食ふるまってくれた。」と当時の事を語ってくれた。食べ物にはまったく不便な思いはすることなく、「本当に有り難かった」とおっしゃった。また、「佐用町の良い所はどんな所ですか」の質問にも「人情かなあ…」とつぶやかれた。希薄化している人間関係がとりざたされる現代社会において、人情の町佐用を改めて発見する事ができた。

例2) 災害直後のボランティア活動中多くの生徒達が、ボランティアに行っているのに「逆に励まされた」と言われた。貴重な水、食料も「食べなさい」「持って行きなさい」と手渡され戸惑ったと言っていた。困っているのにそんな事よりも、私たちの事を気遣ってくださり本当に驚いたと言っていた言葉を思い出す。

死者18名、行方不明者2名の人命を奪った豪雨災害。災害は二度と起こってほしくない。しかし、こうした災害を通じてさらに佐用町が結束でき、次の災害に備える準備ができる取り組みが住民一人一人に芽生えるように活動していきます。



1月9日（日）ぼうさい甲子園にて「優秀賞」をいただきました。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ②

活動実践①【プランター製作・配布】



2年生のグリーンライフという授業で製作の協力をしてもらい、50個のプランターを完成させました。木材磨き→防腐剤塗り→組み立て作業→学校名の記入→草花植え付けと簡単にはいきませんでした、なんとか完成しました。



6月29日（火）私たちが育てた草花を植えたプランターを一輪車で配布しました。激励のメッセージを手渡ししながら、「頑張ってください」の思いも伝えました。中には涙ぐまれて喜ばれる方もおられ、頑張ってきてよかったと実感しました。10月には新しい草花を植え付け、末永く活用してもらえるように活動を続けます。

実践活動②【手作り紙芝居の製作・上演】



水害編と地震編の2つの紙芝居を製作しようと考えました。原稿作りが一番大切で、時間もかかりましたがその後は、スムーズに製作できました。6月22日（火）の発表に備え、イラストを書き、発表練習を積んで本番にのぞみました。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ③



6月22日(火)佐用小学校6年生60人を対象とした防災紙芝居の上演会を実施しました。子ども達が興味を持って聞いてくれるか心配でしたが、真剣なまなざしで聞いてくれ、大変盛り上がりました。上演後のアンケートでは96%の子ども達が「気をつけようと思う」と答えてくれました。

実践活動③【他学生との交流】



県立舞子高校の高校生、神戸学院大学の大学生を中心に、プランター製作や町内除草作業を行いました。私たちが校内で行った活動の輪を広げられ、大変有意義な時間を過ごしました。

他学生の方と防災について考える機会にもなり、意識の高さにも驚かされました。

実践活動④【聞き取り、アンケート調査】



12月27日(月)久崎地区にて被災された方から、水害直後の様子や現在の様子について聞き取りをさせていただきました。年末にも関わらず、様々な質問に対して親切に答えていただき、本当に感謝しています。ここで得た、内容をしっかり検証して今後の活動に生かしていきます。